



### エリア A

道路面に面するエリア A は、エントランス、収蔵エリアに面しているため、管理・調査研究部門の空間としている。従来の管理部門は閉鎖的であったため、開かれた空間のイメージがあった。本計画では、開放空間と同じようにキューブを乱数配置させ、来館者と同じ空間の雰囲気で作業が行えるようにした。



### エリア B

線路側に面しているエリア B は他の展示空間より壁が多く、閉鎖的な空間になっている。壁が多く照明は暗く設定し、静寂した空間となっているため、暗い雰囲気の作品の展示に適している。乱数によって間引かれた部分は植栽ではなくオブジェなどの展示となっている。



### エリア C

エントランスの東側に位置するエリア C は階層が1階のみで展示空間の天井高が他のエリアより高くなっていて、大空間となっている。それにより多様な美術作品の展示が可能になっている。



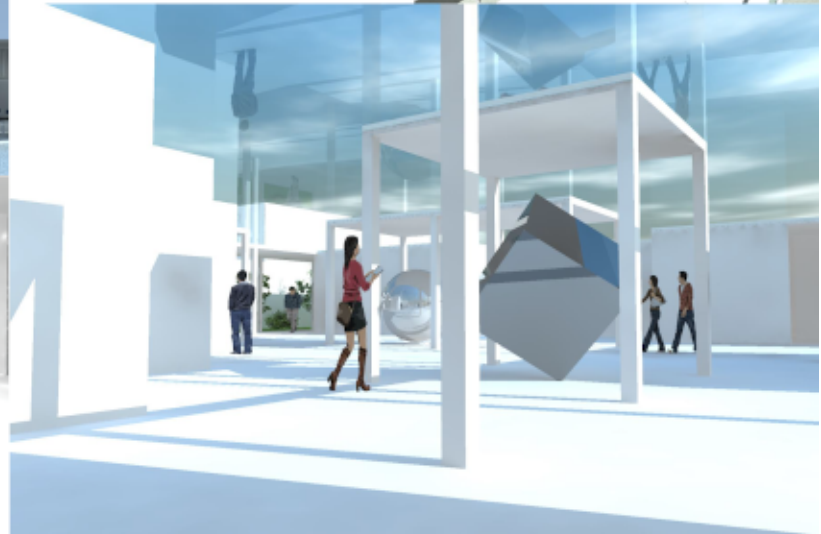
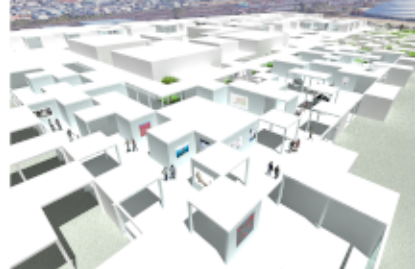
### エリア D

エリア D はエリア B とは逆で展示空間や廊下の壁が少なくなっていて、乱数により間引かれた空間には植栽があり、自然を感じられる開放的な空間となっている。



### エリア E

計画地から市街地側に面しているエリア E は、展示空間以外の空間はすべてガラス張りになっていて、市街地に向けて開けた空間となっている。乱数により作成されているため天井のガラスはランダムに配置されているので、光が入ってくる量が場所によって変わるため明るさに違いがある。



### エリア F

エリア F は外部展示として展示空間が点在配置されている。このエリアは最も開けた計画となっていて、誰でも自由に鑑賞、休憩ができる。基本は美術作品を展示しているが、地域に開けた計画とするため、近隣地域のイベントや活動の展示スペースとしても活用できる。



### 収蔵庫

北側に4つの作業空間が配置されており、トラックなどの運搬車は計画地の東側から入ってくる。中央には広めの通路があり、その側面に収蔵スペースをガラス張りにして配置している。これにより、従来までは閉鎖的空間にあり一般には公開していなかった収蔵品を来館者に公開しつつ、作品の保管が可能になっている。



### 駐車場

駐車場の屋根部分は建物と同じで乱数により決められた配置になっており、間引かれた部分からは光が入ってくるため、日中は明るくなっている。間隔は4mのグリッドで作成しているので車が通る際も広めになっている。中央には植栽空間がある。

